

平成23年度 日本作業療法士協会 作業療法推進活動パイロット事業助成制度

「神奈川県におけるALS者のコミュニケーション
障害に対する当事者，作業療法士，他の医療・
福祉関連職からなる支援体制の実践」

一般社団法人 神奈川県作業療法士会

一般社団法人神奈川県作業療法士会

財務部

学術部

教育部

広報部

福利部

地域リハビリテーション部

規約委員会

福祉用具委員会

社会保障制度対策委員会

ウェブサイト管理委員会

学会評議委員会

企画調整委員会

地域リハビリテーション部の活動

1. 研修担当

下記研修会などの企画準備開催をおこなう

- 1)「第2回OT・PSW合同研修会」
- 2)「第3回訪問リハビリテーション実務者研修会」
- 3)「第2回神奈川県訪問リハビリテーション地域リーダー研修会」
- 4)「第1回訪問リハセミナー(仮)」

2. 普及担当

地域リハビリテーションにおける作業療法の普及を目指す

- 1) 認知症関連スキルの普及(インタビュー1回)
- 2) 難病(ALS)支援スキルの普及(年1回の講習会など)
- 3) 就労支援のパンフレット作成
- 4) 特別支援学校を中心としたタウンミーティング(横浜)
- 5) 訪問リハ事業所のウェブサイト掲載(神奈川県内全事業所)

3. 調査担当

地域リハビリテーションに必要な事業の調査を実施する

- 1) 障害者団体の活動調査
- 2) IT活用による施設間連絡の可能性の調査

事業開始の経緯

平成20年度	日本ALS協会神奈川県支部との連携
平成21年下期	パイロット事業応募
平成22年度	パイロット事業開始(支援体制の構築)
平成22年下期	パイロット事業応募
平成23年度	パイロット事業開始(支援体制の実践)
平成24年度	県士会事業として継続 都道府県士会に報告書を送付

事業開始の経緯

日本ALS協会神奈川県支部との連携

当事者・家族の意見収集, 情報交換

→コミュニケーションに問題を抱えている方が多い

→コミュニケーション援助に関するOTに対しての期待の少なさ

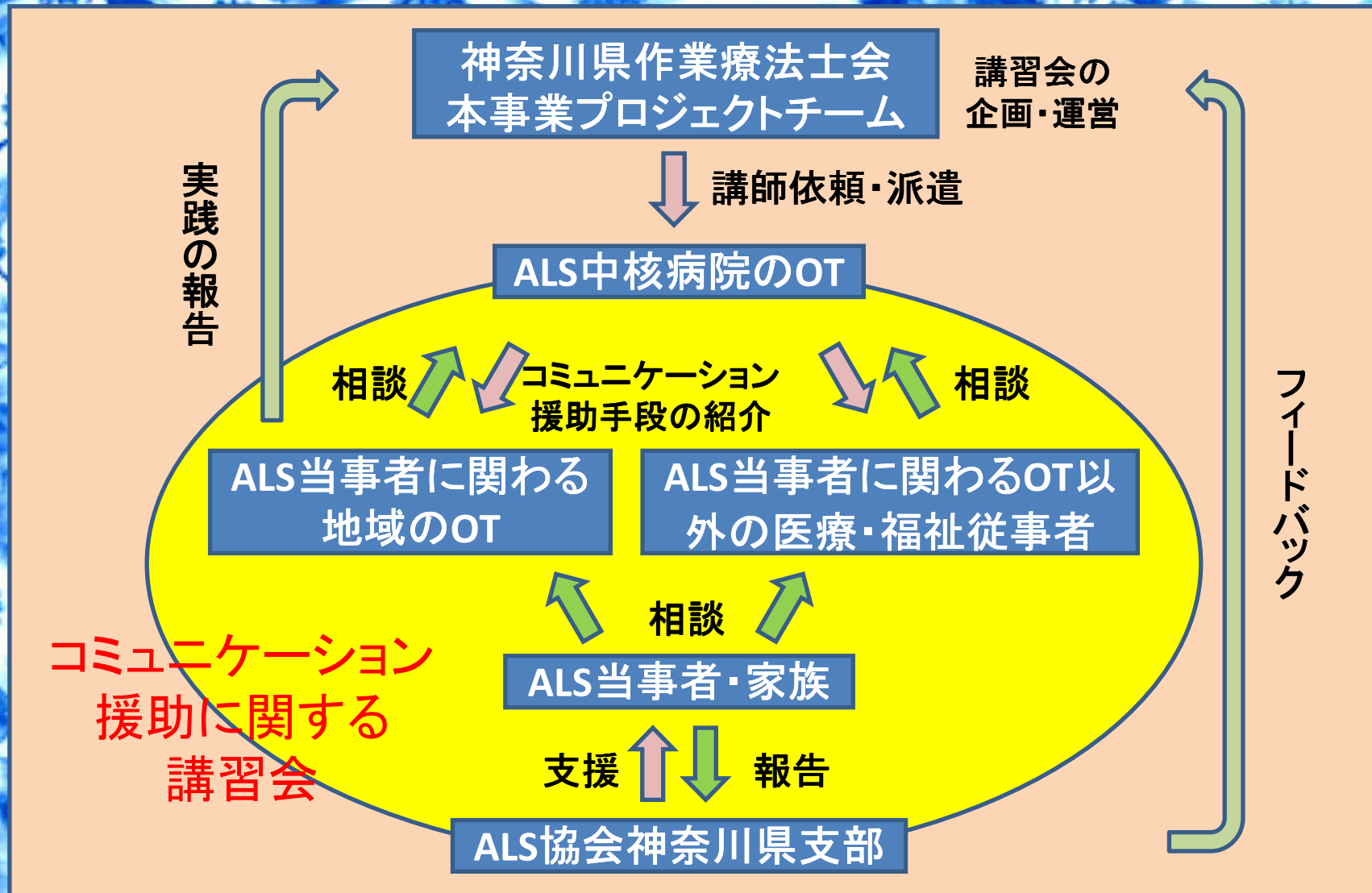
→OTの認知度の低さ「どんなことをする職業なのか？」

→相談する場が少ない, わからない



支援体制

支援体制



支援体制（平成22年度）

《メーリングリスト登録》

登録者：20名

《講習会開催6ヶ月後のアンケート調査》

機器の導入：3例（内2名業務範疇）

《電話調査》

6ヶ月後アンケートに返信された方の中から

2例のみ実施

一般社団法人神奈川県作業療法士会ウェブサイト内
『ALS支援ブログ@KAOT』<http://kana-ot.jp/>



検索



ALS支援ブログ@KAOT

ALSの方を支援している方々を支援します!!

最新記事

新着順表示

カテゴリー別記事一覧

記事の一覧表示

一般社団法人神奈川県作業療法士会 » 新着情報メールマガジン『KANAからの手紙』 »

県士会サイト: [INDEX](#) > ALS支援ブログ@KAOT

2月

子どもの福祉用具展2012

23

☑ コミュニケーション関連, 最新情報

by キムッチ

2012

ALSとは直接関係ありませんが、先日お知らせした「トーキングエイドfor ipad」子どもの福祉用具展で出品されるそうです!! ウェブサイトの出品リストには掲載していませんが 東京都作業療法士会のブースで紹介するようで...

ブログ趣旨

2010年から開始したパイロット事業、神奈川県内のALS当事者とその家族、およびALS支援者のために講習会の開催や情報発信をおこなっております。間接的な関わりですが、温かい支援を育めるように努力しています。

平成23年度事業内容

22年度「支援体制の構築」



23年度「支援体制の実践」

- ✓ 支援体制が途切れることなく円滑に機能するための運営システムの工夫
- ✓ 他都道府県の普及可能性を更に高めるために、支援体制整備の手順と方法を冊子にまとめる

事業目的

ALS当事者とその家族に対して作業療法士がコミュニケーション援助に関わることのできる職種であることを周知するとともに、ALS当事者を支える作業療法士など医療・福祉従事者に対して、具体的なコミュニケーション援助に関する技術を提供することにより、**地域のALS療養者のコミュニケーション障害に対する支援体制を構築する。**また前年度事業実施の経過より、**ALS療養者のコミュニケーション支援体制を整備するためには、引き続き講習会の開催を重ねることが不可欠である**と考える。

なお本事業において疾患をALSに限定した理由は、ALSは特に終末期においてはコミュニケーションエイドが必須となる特徴的な疾患であるということ、そのためOTが専門的に関わっているかどうか当事者のQOLに及ぼす影響が大きいということ、ALS協会が存在することによりOTの役割を広報しやすいということが挙げられる。また本事業はALSに限定しているが、コミュニケーション援助についての知見を深めたOTが、いずれ他の疾患に応用することが期待できる。

また、パイロット事業の命題でもある**「他の都道府県に対して実践の普及が考えられる事業(普及可能性)」**を鑑み、支援体制整備の手順と方法を冊子にまとめ配布する。

プロジェクトチームの活動内容

①日本ALS協会神奈川県支部との情報交換

→ 講習会開催について意見収集。ALS当事者・家族に対する広報の協力要請

②講習会会場の手配 → 後述の要件を満たす会場の選定

③講習会の広報活動

→ 医療福祉専門職団体(保健師、ケアマネなど)などへのチラシの配布およびウェブサイトへの掲載依頼

④当日のプログラムを立案(後述)

⑤物品の購入 → 意思伝達装置などの購入

⑥当日スタッフの手配

⑦アンケート作成(講習会前・後、6ヶ月後) → 巻末の資料を参照

⑧アンケート結果及び活動結果に基づく支援体制の評価

講習会内容

《対象》作業療法士,その他の医療福祉従事者,ALS当事者,家族

《時間》13:30~16:15(2時間45分)

《講義内容》

前年度は全体講義、専門講義の2部構成で講義をおこなったが、講義の内容を分けることに対して参加者からの指摘もあり、平成23年度は参加者に同一の講義を実施。
「身体機能にあわせたコミュニケーション手段の紹介」と題して伝の心、レッツチャットなどのハイテクコミュニケーション方法および書字用自助具や文字盤などローテクコミュニケーション方法についても紹介し、より多くのコミュニケーション支援方法について講義。模擬症例を提示して、ローテク、ハイテクを含めたコミュニケーション支援の流れを説明。

《実機体験》

前年度と同様にグループ形式。実機操作体験では、My Tobii P10とレッツチャットを代理店から借用。My Tobii P10の紹介、操作体験は代理店が実施。

《使用機器類》

意思伝達装置:「伝の心」「レッツチャット」「My Tobii P10」

入力スイッチ:「押しボタンスイッチ」「タッチセンサスイッチ」

「ニューマティックセンサスイッチ」「ピエゾセン

サスイッチ」「EOG(眼電)センサスイッチ」

ローテク:「トーキングエイド」「透明文字盤」「書字用自助具」「ブギーボード」

講習会スケジュール

13:00~	受付開始
13:30~14:30	講義
14:30~16:00	実機操作体験
16:00~16:15	質疑応答



講習会実施状況

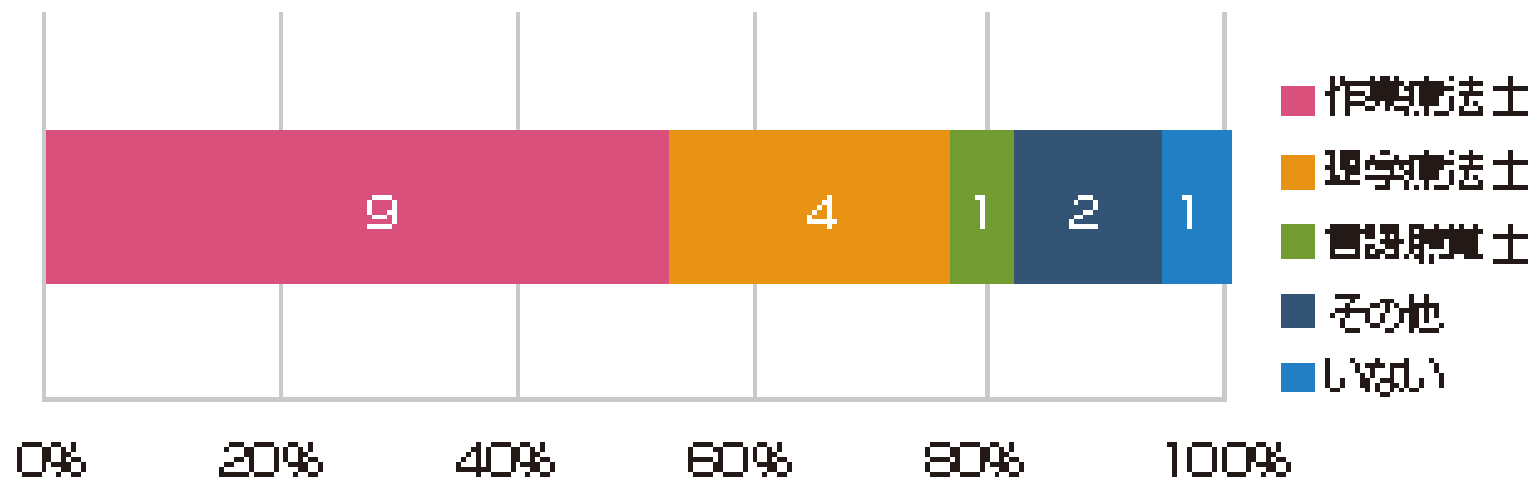


講習会参加者

	平成22年度	平成23年度
作業療法士	26	24
医師	1	0
保健師	10	1
看護師	12	1
理学療法士	7	6
言語聴覚士	0	2
ケアマネ	9	1
社会福祉士	1	1
ヘルパー	1	1
通所相談員	0	1
当事者・家族	11	0
学生	0	1
参加者計	78	39

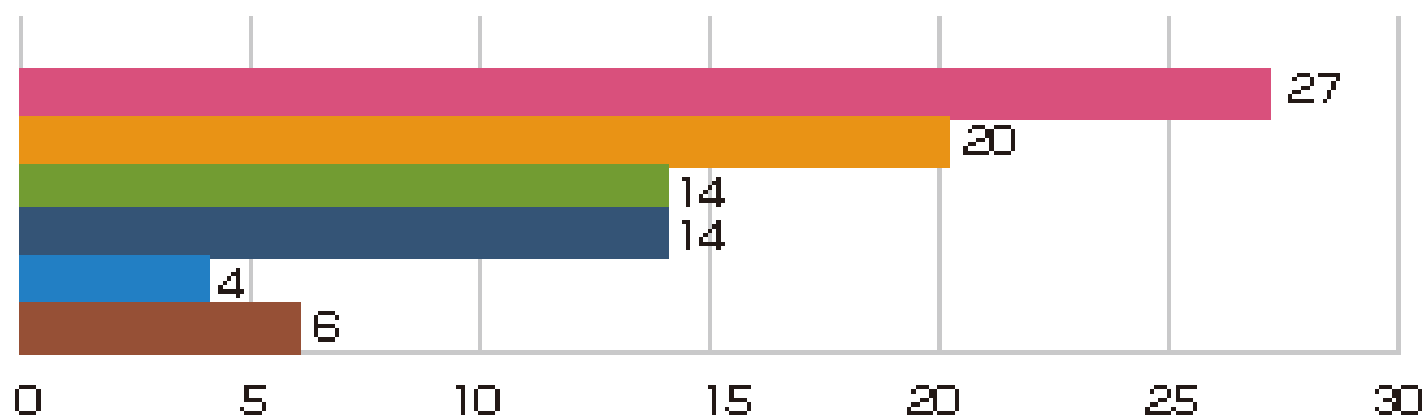
講習会前アンケート結果

Q6 コミュニケーション機器を導入する際に相談できる職種 (n=17)



講習会前アンケート結果

Q7 コミュニケーション機器を導入する際にどのようなことで困りますか
(複数回答可)



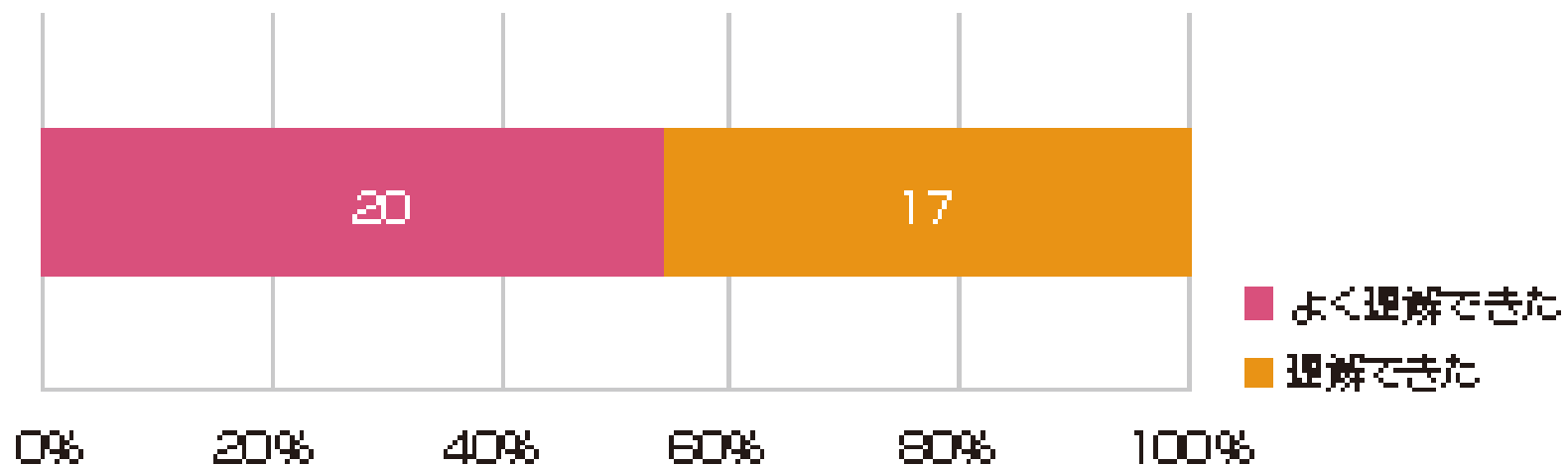
- どのような時期・タイミングで紹介・導入すればよいかわからない
- 機器導入までの手順がわからない
- どのようなコミュニケーション手段や機器があるのか知らない
- 機器に触ったことがないので想像がつかない
- 相談できる相手がいらない
- その他

講習会后アンケート結果

Q8

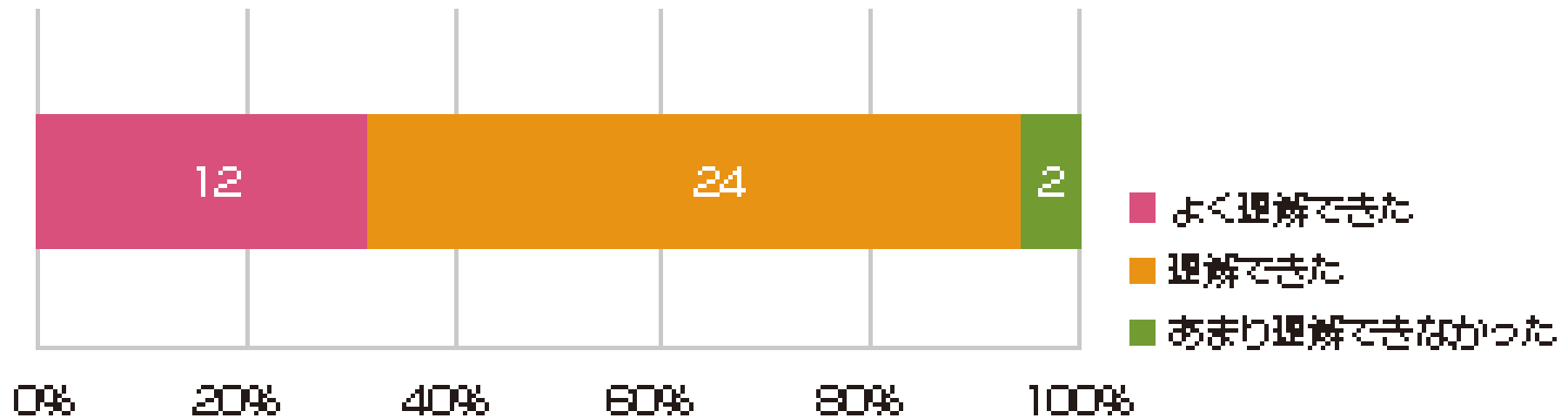
身体機能に合わせたコミュニケーション手段についての理解度

(n = 37)



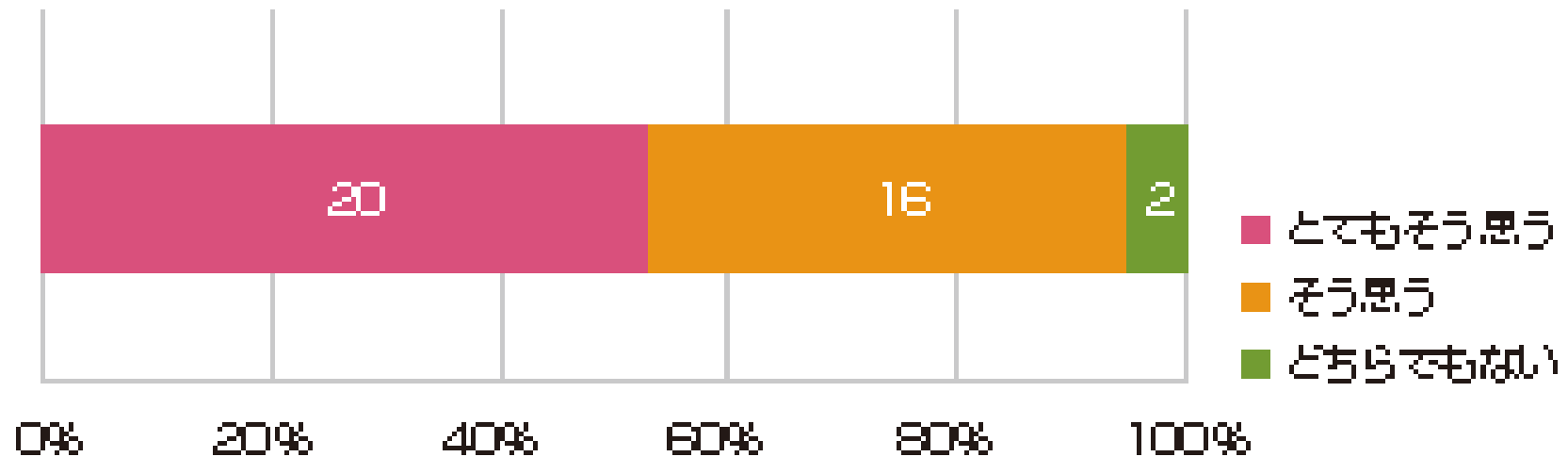
講習会后アンケート結果

Q9 コミュニケーション機器導入までの流れについての理解度 (n=38)



講習会后アンケート結果

Q10 本事業の支援体制は役に立ちそうですか？ (n = 38)



支援体制

《メールリングリスト登録》

登録者：52名

メール数：105件（2010年7月～2012年7月）

《講習会開催6ヶ月後のアンケート調査》

機器の導入：3例

《電話調査》

なし

考察

昨年度程の参加を促すことはできなかったが、講習会内容に変化をもたせたことで参加者の満足度は良好であったと思われる。

支援体制の必要性、有用性は講習会参加者およびメーリングリスト登録者には実感していただいているものの、ALS当事者に
関与している作業療法士等の絶対数が少ない現状が予測される。

今後はALS当事者・家族に対して、作業療法士等がコミュニケーション支援が可能である職種として認めていただき、活用していただけるような活動も必要となる。

事業予算と支出

表7 事業予算と支出

科目	平成22年度		平成23年度	
	予算額	支出額	予算額	支出額
① 給与	51,700円	65,550円	75,900円	63,825円
② 会議費	51,000円	38,554円	25,500円	27,090円
③ 旅費交通費	90,000円	54,700円	72,000円	43,980円
④ 消耗品費	10,000円	5,301円	20,500円	14,630円
⑤ 印刷製本費	25,200円	19,514円	406,500円	265,850円
⑥ 通信運送費	55,000円	20,932円	19,500円	11,280円
⑦ 賃借料	60,000円	18,170円	40,000円	9,900円
⑧ その他	676,100円	526,710円	0円	0円
合計	1,019,000円	749,491円	659,900円	436,555円

普及可能性

- ◆ 余裕のある事業スケジュールである
- ◆ 少人数でのスタッフで運営可能
- ◆ 通常の講習会開催予算で運営が可能
- ◆ 日本ALS協会各支部との連携が可能
- ◆ すでに普及されている機器で講習会が可能
- ◆ 現職者研修などに組み込むことでOTのベーシックな技術にすることが可能



他の都道府県士会での開催可能性 ↑

神奈川県における
ALS者のコミュニケーション障害に対する、
当事者、作業療法士、他の医療・福祉関連職
からなる支援体制整備 の活動報告
および
他都道府県士会での活動普及に関する提案





図7 コミュニケーション支援体制の拡大

今後の各地域で支援体制が構築された際の 情報共有に関するイメージ

- ①「ALS者のコミュニケーション支援体制」を配備した各都道府県士会において、支援体制の運営や支援技術などについて情報交換
 - ②各都道府県のコミュニケーション支援の実践状況や経過を日本作業療法士協会に情報提供
 - ③日本ALS協会と日本作業療法士協会の連携を深めると共に、各都道府県での実践状況について情報提供
 - ④日本ALS協会から会員である当事者の方々に作業療法士の実践などを広報
 - ⑤コミュニケーションに問題を抱えた当事者が作業療法士のコミュニケーション支援を希望
 - ⑥作業療法士によるコミュニケーション支援の実践
- ①～⑥のサイクルを繰り返すことで、作業療法士のコミュニケーション支援技術の向上はもちろんのこと、組織間の連携を深め各々の活動を理解し広報することで、ALS当事者のニーズを引き出すことが可能になるのではないかと考える。